

《概要版》 令和6年度 小樽市観光入込調査デジタル技術活用業務

【業務目的（抜粋）】

- 小樽市では、昭和35年度から観光入込客数調査を実施しているが、外国人の日帰り客数や観光客の移動等については把握していない。また、適時性・迅速性に欠け、調査協力施設等（観光地点）の確保が難しいといった課題がある。
- 外国人観光客が増加するなど小樽観光を取り巻く状況は変化しており、データ分析に基づく「打ち手」を検討する必要があることから、本業務においては、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準（令和5年改訂版）」の調査要領に準じ、GPS人流データを活用し多サンプルに基づく来訪者（国内・外国人）の把握を目的とする。

【調査対象地】 小樽市全域のほか、以下の8エリア

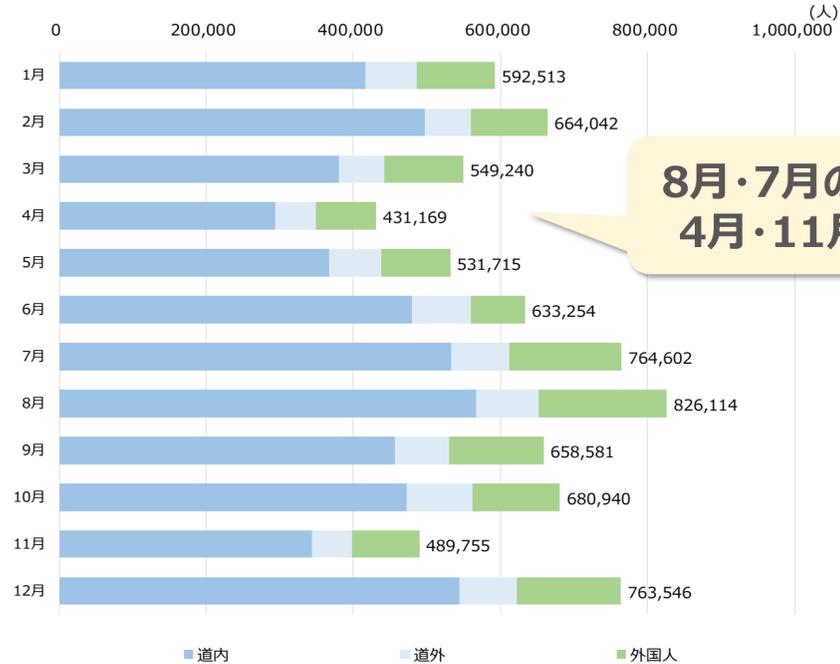


【使用データ】 GPS人流データ「全国インバウンド統計」



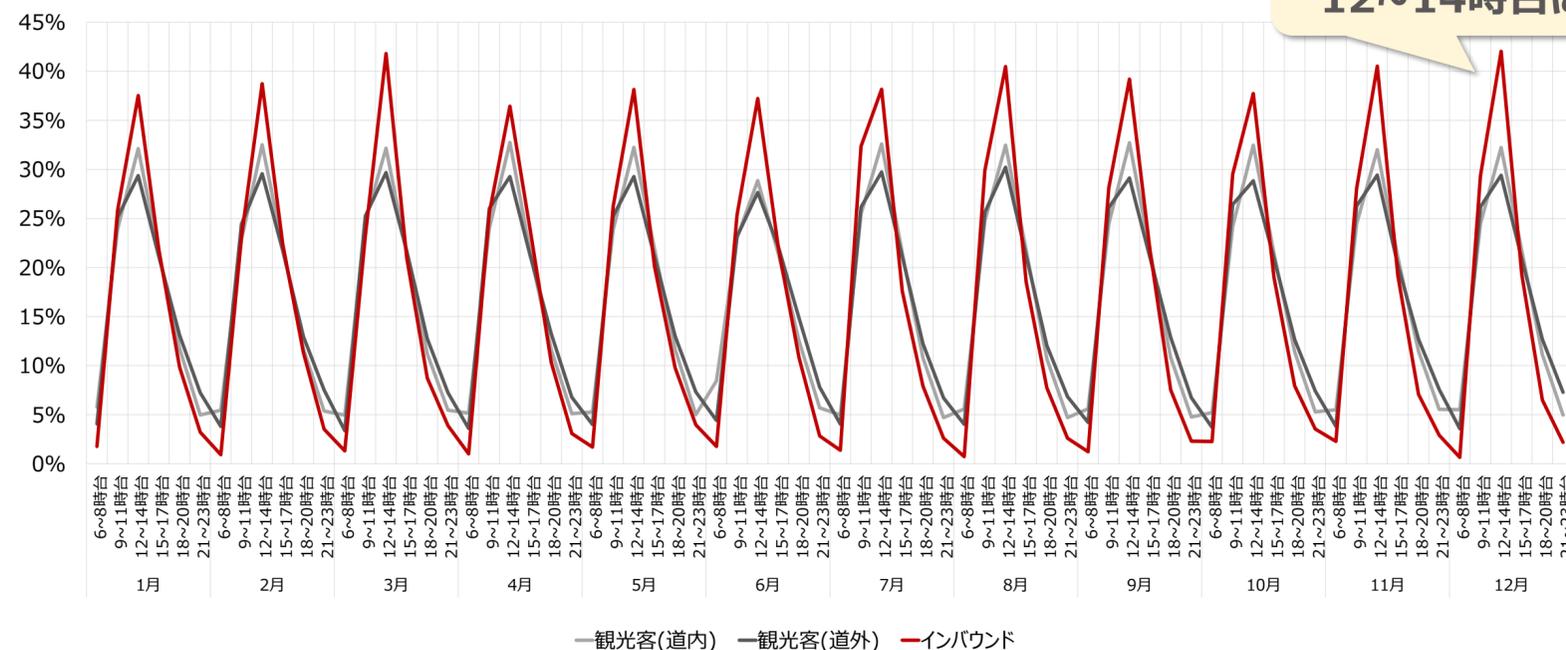
《概要版》 人流データによる分析結果（抜粋）

【観光入込客数：小樽市全域】 ※一日当たり

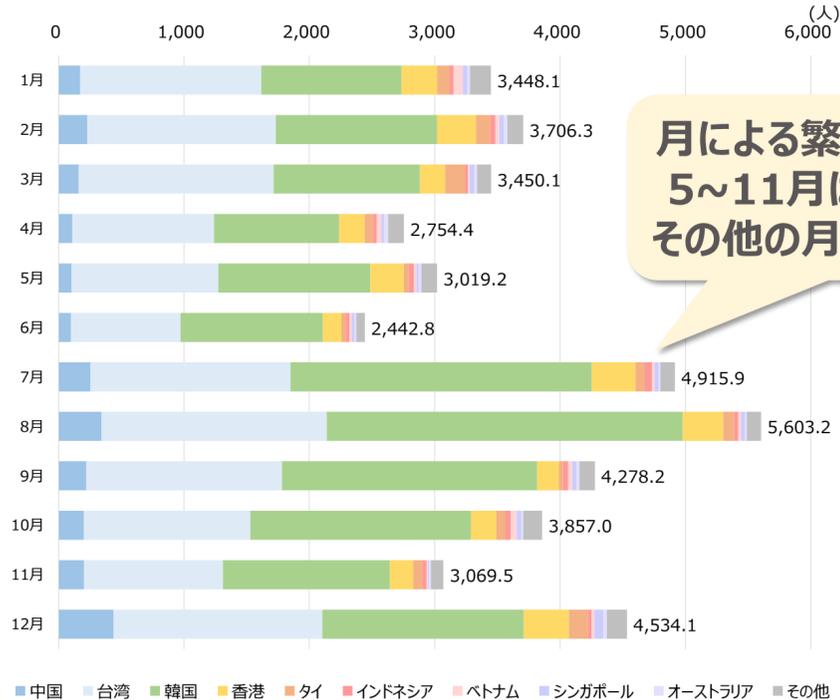


8月・7月の入込が多く、
4月・11月は落ち込む

【来訪時間帯：中心部エリア】

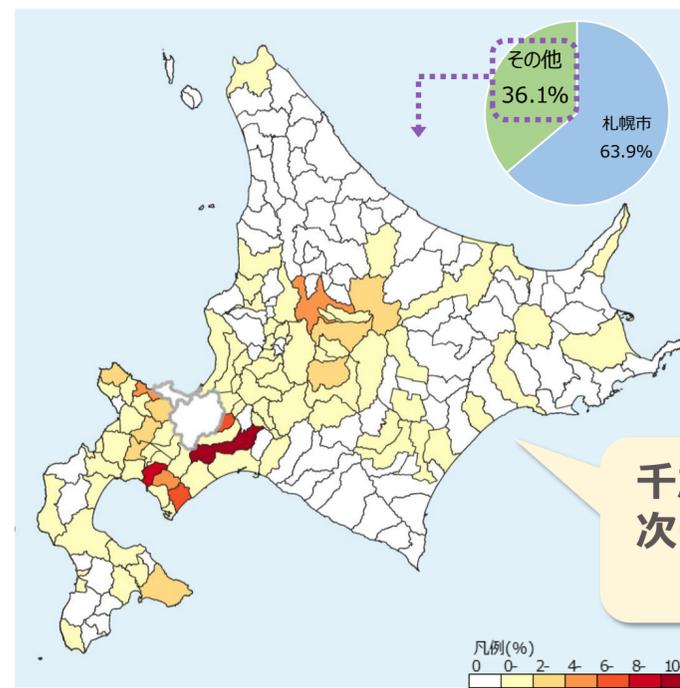


【居住地：小樽市全域】 ※インバウンド、一日当たり

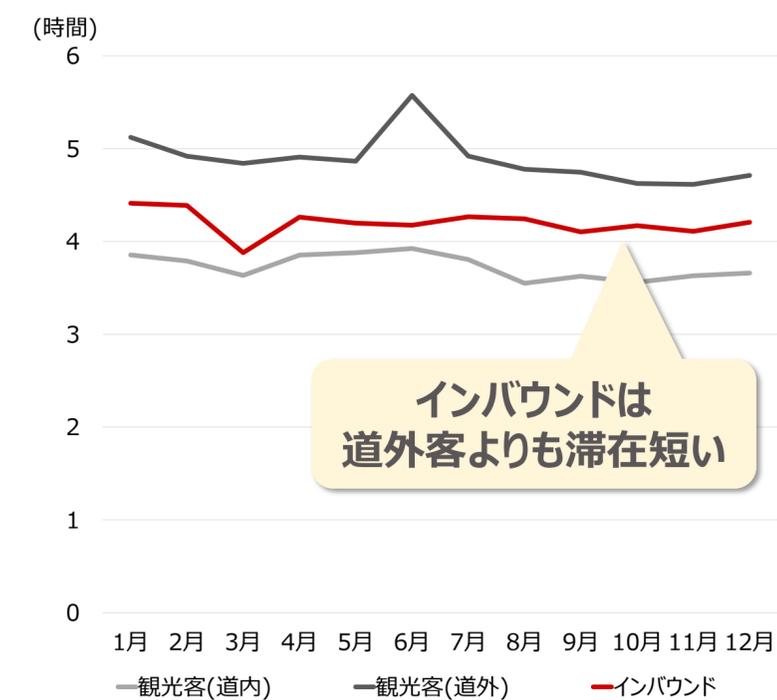


月による繁閑差が目立つ
5~11月は韓国が最多
その他の月は台湾が最多

【周遊先：小樽市全域】 ※東アジア、札幌市以外



【滞在時間：中心部エリア】



《概要版》 インバウンド観光の概況、今後に向けて

観点	小樽市全域の概況	エリア別の概況
入込客数・居住国	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 総数では、8月・7月の来訪が多く、6月・4月は落ち込む ➤ 国別では、1月～4月・12月は台湾が最多、5月～11月は韓国が最多 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 小樽運河では冬季に、祝津・高島・手宮エリアでは一年を通して香港・タイが目立つ ➤ 天狗山エリアでは、総数で12月・8月の来訪が多く、割合では他のエリアに比べ台湾・香港が多い ➤ 朝里川温泉エリアでは、総数で12月・2月の来訪が多く、割合では韓国が一年を通して最多 ➤ 銭函・張碓エリアでは、総数で8月の来訪が顕著に多い ➤ クルーズでは、韓国が最多、次いでフィリピン・台湾が多い
来訪時間帯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日本人に比べて、9～14時台に来訪が集中 ➤ 東アジア居住者は、5月・7月・10月・12月が9～11時台、それ以外の月は12～14時台がピーク 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 中心部エリアや小樽運河では、概ね12～14時台にピーク ➤ 天狗山エリアでは、12月を除き15～20時台にピーク ➤ 4月・6月は、来訪時間帯が比較的分散
滞在時間・宿泊数	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東アジア居住者は、道外客に比べて滞在時間・市内宿泊数ともに少なく、短期滞在傾向 ➤ 東南アジア・欧米豪居住者は、滞在時間が東アジア居住者よりも長い傾向にあるが、3月・6月・9～11月は落ち込む 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 宿泊地である朝里川温泉エリアのほか、銭函・張碓エリアでも滞在時間が長い傾向にあり、特殊需要がうかがえる
周遊先	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東アジア居住者は、札幌のほか千歳との周遊が特に多く、次いで洞爺湖・登別が多い ➤ 東南アジア居住者は、札幌のほか、2月・12月は赤井川、7月は余市、10月は千歳との周遊が特に多い ➤ 欧米豪居住者は、札幌のほか、2月・11月は登別、5月は函館、7月は江別、10月は上川との周遊が特に多い 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 中心部エリアの東アジア居住者では、築港エリアや小樽運河との周遊が多い ➤ クルーズでは、市外は函館・札幌との周遊、市内は中心部エリアとの周遊が多い

◆◆◆ 今後は…

- 社会問題となっている**オーバーツーリズムの実態の細密な把握と対応**に向けて、「エリア別」のほか「メッシュ別」での分析も行うことが有効
- 観光関連事業者等のニーズ収集を行いつつ、**地域や各観光地の特性に対応したきめ細かいデータ分析を継続**することが重要
- 分析結果をふまえた、観光関連事業者等に対する**具体的「打ち手」の実行支援や成功体験の獲得とその周知**が、**データドリブンマーケティングやEBPMの全市的波及**に繋がる